

(自己評価等関係)

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	とりはた玄海園 ここColor		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 25日		2025年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 15	(回答者数)	13
○事業者評価実施期間	2025年 2月 25日		2025年 3月 1日
○事業者評価有効回答数	(対象者数) 5	(回答者数)	5

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別化の対応を原則としている	一人ひとりのアセスメントに基づき、スケジュールや自立課題を作製している。個別化を図ることで、全利用者が活動内容(いつ、どこで、何を、どうするか)を理解して見通しを持って活動に参加出来ている。	更に職員のアセスメント力を強化し、活動内容の充実を図る。
2	研修の充実 毎月外部講師によるアドバイザー研修を受け、自閉症の専門性(知識や技術)の向上を図っている	講師から講義だけでなく、ケース検討を行いながら支援方法について助言指導を受けいる。その内容を支援に取り入れ、アプローチ方法など保護者とも共有を図っている。	外部講師による研修を継続し、自閉症の障害特性によるつまづきを支援するため、更なる専門性の向上を図る。
3	家族との連携 保護者とのモニタリング時、支援計画の達成状況を確認しながら成長過程とともに、障害特性を踏まえた支援方法について連携を図っている。	保護者には、特性を踏まえて支援している内容をモニタリング時にお知らせしている。	家族、支援者(相談支援専門、学校)の連携を図り、支援の方向性を統一していきたい。また、自閉症支援に関する講義やセミナーなどの紹介していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材の定着・育成 基準の配置は満たしているが、非常勤職員を含めて定着を図る	重度自閉症児を支援するにあたり、基準以上の配置が必要と考えている。専門性や専門技術が求められるため、定着のしづらさがある。	職員が年間を通して、自閉症支援に特化している事業所で実習を行う。職員全体の専門性を向上させることで新規職員の育成を図る。
2	会報やHPの充実 マニュアルや連絡体制等の周知の強化	保護者全体への情報発信が出来ていないため、周知に至っていない。	連絡帳アプリ等の活用を検討中。それらを活用して情報発信に努める。
3	障害のない子どもとの交流する取り組み	「障害のない子どもと活動する機会を設ける」取り組みへのニーズ(保護者および本人)がないため、実施はしていない。	本人にあった交流方法で実施することが必要であり、インクルージョンを踏まえた取り組みとして、社会資源の活用については取り組んでいる(買い物や公共機関への外出等)。卒後の生活に必要な取り組みであり、今後も機会を増やしていく。また戸外活動は地域の公園を活用して地域子ども達と交代で遊具を使用する、順番を待つ等の経験は積んでいる。